tentia. Sporae 17–20 μ, flavo-brunneae, minute punctatae. Elateres attenuati, unispirales, spiris dense tortis.

Exam. Miyazaki: Mt. Okue, 900 m, T. Amakawa 1134-Typus!, Apr. 1, 1953, in Herb. Hattori Bot. Lab.

ヒトスジツボミゴケ (新称) を新しく記載した。筆者が宮崎県大崩山で採つた小型種で，葉は一見 *Jungermannia tristis* に類するが葉細胞の角隅は小さいながら明瞭で，茎もかなり剛強である。仮根は鮮かな紅紫色で，茎の腹面にはつきりした縦の帯をつくつている。彈糸のらせんは本属の他種が二すじであるのに対し一すじであることが最も著しい。

この機会に常に指導を賜り本稿を御校閲下さつた服部新佐博士に心から感謝の意を表する。又採集品を寄せられた岡田清・佐々木太一・児玉務・永井憲之の諸氏に厚く御礼申し上げる。

○ミツバヒヨドリバナなる名　(檜山庫三)　Kōzō HIYAMA: *Eupatorium chinense* var. *simplicifolium* f. *trisectum*, a new name.

ミツバヒヨドリバナという名は初め早田文蔵氏 (1903) 年によつて命名されたが，それは台湾のタイワンヒヨドリバナモドキを指したものであつた。ところが，後になつて牧野富太郎氏 (1909) 年によりそれと同じ和名がヒヨドリバナの一型にもつけられて，むしろこの方が一般化しているように見える。しかし，和名の場合も，明治以降 (年代については尚研究を要する) の出版になる科学的な文献に現われたものについては別に故障のない限り先主権を認めねでもせねば將来の混乱が思いやられると私も考えるから，ヒヨドリバナの変形であるミツバヒヨドリバナの方をミツザケヒヨドリと改めたい。尚，ついでに学名の方も **Eupatorium chinense** L. var. **simplicifolium** (Makino) Kitam. forma **trisectum** Hiyama, **nom. nov.** — *Eupatorium chinense* var. *simplicifolium* f. *tripartitum* (Makino) Hara, Enum, Sperm. Jap. **2**: 201 (1952), non *E. chinense* var. *tripartitum* Miq. 1866 と新しい名に変えたい。

□原攝祐　日本菌類目録の紹介　Review of K. HARA'S A list of Japanese Fungi

今迄に出た日本菌類目録 3 版に大きく増補をして著者の古稀の記念に多くの犠牲を払つて自費出版をされたもの。範囲は現在の日本の他にその周辺地域が含まれているし，“日本の菌類学者が研究した菌類総目録”である。著者が寄生菌に詳しい関係上，寄主については詳細に種が列挙されており，寄主の索引もあつて便利である。木曾谷の一山村に住まれる著者の烈しい熱意が凝結したものとしてこの書をおすすめしたい。3 版迄に含まれた細菌類は除かれている。蓋し別に一書を企劃してそれに譲つたからである。総頁 447. 図版 6 枚. 定価 1500 円. 頒布は岐阜県惠那郡川上村 1172 著者方，日本菌類学会でしている。 (前川文夫)